

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム紫原
(ユニット名)	しょうぶ
所在地 (県・市町村名)	鹿児島市
記入者名 (管理者)	久保 良子
記入日	平成 21年 7月 1日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<input type="checkbox"/> 1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	新たに理念項目を取り入れ、サービス向上に心掛けている。	
<input type="checkbox"/> 2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日、申し送り後、勤務者全員で唱和する事により、理念を再確認し、取り組んでいる。	
<input type="checkbox"/> 3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	毎月のホーム便りに、月間行事と共に理念を載せている。地域の方には、浸透しやすいように、目に付きやすい所に掲示している。	
2. 地域との支えあい			
<input type="checkbox"/> 4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常生活を通し、朝の出勤時、公園散歩時等、挨拶を交わし交流を計っている。ホームで作ったラッキョウ漬けや、梅干等を近所にあげたり、近所の方々より、自宅で取れた果物や野菜をもらっている。	
<input type="checkbox"/> 5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	以前同様、町内会の各行事等に入居者を含め参加する事により、交流に努めている。ボランティアの方への呼びかけを行い、入居者さんとも楽しい時間を過ごされている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議等を通し、地域の方々との交流を計ったり、又、人材育成の為、常に実習生の受け入れも行っている。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>スタッフ全体で、自己評価を話し合っている。評価後は、全体ミーティング時に議題にしてあげ、皆で話し合い、具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>地域の方や、入居者の家族の方々に参加を呼びかけ、随時行っている。議会で出た意見等、サービス向上に努めている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市町村担当者へは、年間行事予定表やホーム便り等、送付したり持参し、交流を図っている。又、困り事がある時は電話相談をし、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護の研修がある時には、参加し知識を深める努力をしている。又、他事業所とも、情報交換を行うようにしている。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止の研修等に積極的に参加し、出席できなかったスタッフへは、ミーティング時に話し合い行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>管理者立会いの説明の下で、十分な理解・納得を得ている。解約時には、退居後の行き先に不安のある方に対して、紹介等行ったり相談に乗っている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を設けている。 介護相談員が、年一回来訪し、利用者の相談に乗っている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、行事予定表とお小遣い帳の残金をコピーし、家族へ送付している。家族の面会時、色々と報告を行っている。必要な時は、電話連絡等も行っている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>推進委員会で、入居者の家族・地域の方々に声かけをし、意見・要望は、ミーティング時に話し合い行っている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎朝の申し送り時や、月一回のミーティング等で、職員の困り事や意見を聞き、全体で話し合うことで意見を反映できている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>季節毎の行事や野外活動時は、出勤者数を増やし、休みの職員はボランティアで参加する等して、十分な人数を確保できている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>新しい職員が入った時には、馴染みのスタッフが入居者との間に入り、お互いが親しみやすく話せる環境作りを心掛けている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修案内が届いた際には、掲示板に貼り積極的に参加を促し、レポートを提出してもらうことで、より一層知識を深めてもらっている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>毎月の谷山地区のグループホームの研修に参加することで、お互いの情報共有や質の向上に努めている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>忘年会や新年会を毎年企画し、業務以外でも運営者、管理者、職員が気軽に話せる親睦の場を設けている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は、毎年大きな行事には必ず出席し、働く職員の姿や管理者より職員の努力や実績の報告受けることで、現状把握し、直接職員へのねぎらいの声かけている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>直接、見学に出向いてもらうことで、本人と面談し、ご本人の困っている事や、不安をより詳しく聞けるように努めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>見学時には、ご本人と付き添ってもらい、ご家族の不安か困り事もよく聞けるように心掛けている。又、ご本人の前では話しづらい時には、ご本人とは別の席で話を聞く等、配慮している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時、専門職が先ず話を聞き必要性を見極め、必要時には他のサービスの紹介や、提案をさせてもらっている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	初めて利用される時には、職員が仲に入り、他の利用者への自己紹介をしながら、緊張をほぐし、不安を取り除けるよう、環境づくりに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の話に耳を傾け、喜怒哀楽を共感する事により穏やかになられ、信頼関係を構築する事が出来ている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時等で、挨拶を通して親しい関係になれるように心掛け、家族と職員が一丸となって、本人を支えていけるよう支援している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の状況を把握し、共に過ごせる時間を提案したり、月1回発行のグループホーム便りで行事等、事前のお知らせを行っている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームの近所に自宅のある入居者に対しては、希望があれば自宅周辺を散歩したり、毎月、墓参りに外出されたり、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を把握し、座席の配慮や入浴日の配慮で、1人1人が孤立せず、気の合う仲間同士で自然に思いやりの気持ちや、お互いに支え合う関係作りが出来ている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	継続的な係わりを必要とする利用者が、家族には、必要時には相談にのったり、アドバイスや他事業所を紹介等行うように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者1人1人との会話や表情から、希望や意向の把握に努めている。 困難な場合は、本人・家族を含め話し合いの場を設け、出来るだけ本人本位の添うよう努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人に今迄の生活状態を聞いたり、今迄の生活に近い環境を作っていくよう努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者1人1人の生活リズムに合わせた一日の過ごし方や、出来る力を見極め、出来る事を奪うことの無いよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族の面会時は、常に近況報告を行い、その都度、課題やケアのあり方について話し合っている。話し合いの場です新たに出的意見や、アイデアは、介護計画に反映するよう心掛けている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、各担当者や計画作成担当者が主となり、モニタリングを行っているので、対応できない変化が生じた場合は、スムーズに本人・家族・必要な関係者と話し合う場を設ける事ができ、現状に即した新たな計画作成を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記入する時は、出来るだけ本人の思いが伝わりやすいように本人の言葉で記入するように心掛けている。記録をすると共に、申し送り時も個別に申し送り、情報を共有する事で介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診の付き添いや、リハビリの送迎、買い物等ご本人の希望があるが、家族に都合が悪い時には、家族の代わりに支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の小・中学生の職場体験を行ったり、防災訓練を通じて、消防関係とも連携が取れている。又、民生員の方との交流も、常に行っている。ボランティアの方の協力も多くなっている。 地域の派出所より、家族会・運営推進会に出席してもらい、話をしてもらっている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要性に応じて、訪問診療・看護・訪問マッサージや、フットケア・訪問カット等の他サービス事業所と話し合い、他のサービスを利用するための支援を行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議の参加の声かけを行っているが、多忙の為、なかなか交流図れず協働できていない。	○	今後も参加の声かけを行い、必要時はこちらから出向いて、協働していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望を重視し、利用者本位の受診が出来るようにしている。 協力病院を設け、必要時には往診、助言をもらえる医師を確保している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力病院のもとで、相談や医師の助言を仰ぎ、診断や治療が受けられるような環境作りに努めている。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	各階に看護職員がおり、かかりつけ医院の看護職員との協働で、日常の健康管理を行っている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	専門医や医療関係者との情報交換や、相談を常に行って、早期退院が出来るような支援を行っている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族会で重度化や週末期のあり方についてお話し、今後の意向等をお聞きすると共に、本人、家族、かかりつけ医と情報共有するように心掛けている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度や終末期の利用者の今後の変化に備えて、日頃から話し合いの場を設けており、出来る事・出来ない事を見極めかかりつけ医と密に連絡を取り今後に備えている。		
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人が別の居室へ移り住む際は、ダメージを出来るだけ少なくするように、家族や本人、ケア関係者との情報交換を十分に行い、ダメージを最小限に抑えられるよう努力している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーや個人情報についての研修がある時には、積極的に参加し、一人一人の誇りやプライバシーを尊重すると共に、排泄や失禁時の失敗等、本人のプライバシーを損なわないような声の大きさやトーンにも配慮した、声かけや記録を心掛けている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個々に合わせた話しの傾聴や声かけを行い、ご本人が思いや希望が表せやすい環境作りに努めている。又、分かる力に合わせた説明を行いできるだけ自己決定出来るよう支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩やレクリエーションは、本人の希望により参加してもらい、居室で過ごしたい方は、自由に自分のペースで過ごしてもらっている。又、食事時間や入浴時間も出来る限り、本人の希望に添うように努めている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	一人一人の身嗜みは本人に決めてもらい、お手伝いが必要な方は支援を行い、本人の好みの身嗜み出来るよう心掛けている。 本人の行きつけの理容・美容院がある方は、自由に利用していただき、特に行きつけが無い方は、訪問美容を利用してもらっている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は楽しく、おしゃべりしながら行い、一人一人の力に応じて、準備や片付けのお手伝いをしてもらっている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個人の嗜好に合わせて、好みの物を出しているが、病歴や内服によってはやむ得ない場合もある。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	日中は出来るだけ、自立支援に向けてオムツ使用は控え、失敗を最小限に抑えるため、声かけにてトイレでの排尿を促している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴順番等、平等に入浴出来るよう、毎回順番を考慮している。 外出等で時間がずれた場合でも、本人の要望があれば入浴行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その方の状態に合わせて、休息や午睡を、その都度促している。 夜間は、安眠出来るように、日中、散歩に出かけたり、出来るだけ体を動かしてもらうよう努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人の生活歴を把握し、その人に合った役割や楽しみの計画(散歩や野外活動等)をしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来る方は、個人でもらっているが、支援が必要な方は、職員がサポートしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩や、治療目的のリハビリ外出等は、本人の希望に合わせて、自由に外出してもらっている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	定期的に外食や、野外活動を計画して、外出の場の提供を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に電話をかけたい時は、気兼ねなく電話をかけてもらい、手助けが必要な方は、支援を行っている。又、ハガキ等の宛名書きも必要な方へは、支援を行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	馴染みの方が訪問される時は、笑顔で挨拶を行っており、馴染みの関係作りを心掛けている。 家族や利用者さんが会いたい人に、面会できるようにお願いしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部である研修会に積極的に参加し、参加できなかったスタッフには、勉強会を開催し、皆で知識を深め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を十分理解しており、見守りを徹底する事で、鍵をかけないケアを行っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜、プライバシーに配慮しながら、定期的な所在確認や、安否確認を行っており、散歩等野外に外出する際は、特に注意を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	本人、家族と十分に話し合いを持ち、スタッフ間でも検討し、出来るだけ本人の思いに添うような、保管・管理を行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットや事故が起きた時には、スタッフ全体で話し合う場を設け、事故の起こった原因や防止策を皆で話し合い、事故防止や再発防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	初期対応については、年に1回、救急隊に救急手当ての講習等行っている。又、急変の予測される入居者に対するマニュアルも作成し、掲示している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、日中・夜間を想定し消防隊立会いの下に、避難訓練を行い、避難方法を身に付けるようにしている。ホームの近所に、訓練のお知らせを配布している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時等に、家族とのコミュニケーションを取りつつ、日頃の本人様の様子や変化、起こりえるリスクについて説明し、本人・家族と対応策を話し合い、本人にとって出来る限り、抑圧感の無い暮らしが送れるよう努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックや食事量、水分量、排尿・便の把握にて、体調変化や異変の早期発見に努めている。又、自分から、異変が伝えられない方は、表情・動作の観察も常時行っている。異変の発見時には、管理者・看護職員・主治医と連携を図り、対応に結び付けている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬・臨時処方の際、職員間の申し送りをを行い、一人一人が薬の説明書を見ながら、対応している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	お茶の時、個人の水分量を確認している。入浴後、散歩後の水分補給に気を付けたり、食品も偏らないような調理に気を付けている。又、公園散歩や棒体操で、体を動かすよう進めている。 便秘予防の為、手作りヨーグルトを10時のお茶時出している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、見守り・介助にて、口腔ケアを行っている。歯科訪問診察も受けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	三食の食事以外でも、おやつや入浴時・夜間の水分補給を行ったり、個々の人体状況に合わせて、料理の形態(キザミ)工夫している。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出時は、手洗い・うがいを毎回行い、勉強会も開き、予防・対策について話し合っている。 インフルエンザ予防接種も、入居者・職員、毎年行っている。 来訪者には、消毒行ってもらい、風邪気味の方には、マスク使用をお願いしている。	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	鮮魚類は、毎日使い切るように調理し、購入した食材も早めに使い切るように行っている。 調理器具等は、食器乾燥機を使ったり、塩素系の消毒を行っている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1) 居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関横や、内庭に花壇を設け、家族の方から頂いた花の苗を植え、季節の花が咲き、気軽に出入りできるようにしている。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆっくりとしたスペースがあり、ゆったりと過ごせる設計がされており、ホール内も季節感が感じられるように、季節毎に装飾を行っている。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにゆっくりとしたスペースがあるので、ソファ等で入居者同士談話やレクリエーション等を行ったり、パブリックコーナーの使用にて、独りの空間を十分に楽しめるような、環境作りを行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人にとって、愛着のある品々を置かれ、今まで、生活していた状態と、同じような生活が出来るような模様にされている。写真や好きな花等を置かれ工夫されている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	天気の良い日は、窓を開け、換気をするよう気を付け、なるべく自然の風を入れている。日中と夜間の湿度差には、特に気をつけて、空調によって調節している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	注意が必要な場所には、手摺等を設置し、安全面に気を付けている。各居室、ホールもゆっくりとしたスペースがあり、自立した生活が送れるようになっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自立出来ている部分については見守りをし、個々の分かる力は活用して、自立した生活が出来るよう工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外回りには、花や野菜を入居者と一緒に植えて、収穫時期には、皆で楽しく収穫して、食している。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- 毎日、様々な行事を計画し、野外活動でホームから外へ外出する機会を多く設けており、入居者・ご家族にとっても喜ばれております。又、公園も近所にあることから、この恵まれた環境を活用し、雨の日以外は、毎日、散歩に出かけ自然と触れ合う機会を設けております。それに伴い、散歩に出かけることにより、気分転換が図れ、認知症の緩和や下肢筋力の維持・向上へと繋がっています。
- 排泄面では、日中、出来るだけトイレで排泄出来るよう、心掛けており、個々の排泄パターンを把握し、定時のトイレ案内を行っています。